

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府宇治市榎島町24, 16番地									
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 微生物化学研究所 代表取締役社長 角田 洋一									
事業者の主たる業種	動物用医薬品製造業									
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））									
計画期間	平成21年4月～24年3月									
基本方針	平成20年度を基準にして、計画期間中に3%以上の温室効果ガス排出量の削減を目指す。									
推進体制	業務部長を省エネルギー推進体制の長とし、実施計画について定期に進捗管理を行う。									
環境マネジメントシステム名称 適用範囲 取得年月日										
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容							
	平成22～23	本社 ボイラー	蒸気ボイラーの台数制御、給蒸圧力の抑制。（<22>都市ガス使用量 ボイラー設備で23%削減）							
	平成21～23	管理部・営業部門	車両を更新する場合には、ハイブリッド車の導入を検討する。（<22>ハイブリッド車を1台更新）							
	平成21～23	事業所全体	アイドリング・ストップを励行する。							
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （20）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （23）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）				
	A 事業所等排出区分	4,978.9 t	4,829.5 t	-3.0 %	4,342.8 t	-12.8 %				
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%				
	C その他排出区分	t	t	%	t	%				
	排出合計	*1 4,978.9 t	*2 4,829.5 t	-3.0 %	*4 4,342.8 t	-12.8 %				
	実績に対する自己評価	基準年度から12.8%の温室効果ガスの削減が図ることができた。物流センター、宮津支所共に、温室効果ガスの排出量が増えたが、今後、個々の工場においても削減できるように努力する。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
		二酸化炭素換算			%		%			
		二酸化炭素換算			%		%			
		二酸化炭素換算			%		%			
実績に対する自己評価										
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）				
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）		
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	
	府内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t	
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t	
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t	
	削減量等合計			*3 t			*5 t			
	差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	*1 4,978.9 t	目標年度（計画）	*2)*3 4,829.5 t	増減率（計画）	-3.0 %	報告年度（実績）	*4)*5 4,342.8 t	増減率（実績）

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。  
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。